

法面植栽に適したグラウンドカバー - プランツ苗生産における用土別施肥法							
<p>【要約】法面植栽に適した4種のグラウンドカバープランツについて、苗生産における用土別ポット当たりの適正な施肥量は種類によって異なる。アークトセカの場合は芽数や生体重からみて、赤土用土では被覆複合肥料3gが、山砂用土では同2～3gが適当である。</p>							
三重県科学技術振興センター・農業技術センター・花植木センター・栽培担当					連絡先	0593-70-4977	
部会名	野菜・花き	専門	栽培	対象	緑化植物	分類	普及

[背景・ねらい]

グラウンドカバープランツの中で中山間地域の傾斜地、法面の土壌浸食防止、雑草発生の抑制等の環境保全機能を有するアークトセカ、コグマザサ、ヘデラ・カナリエンス、リュウノヒゲについて、効率的育苗法を確立するため、苗生産における用土別の施肥法を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. アークトセカのポット苗生産は、赤土用土の場合、ポット当り被覆複合肥料270(総N成分量)3gが適し、山砂用土では被覆複合肥料270の2～3g施用が適している(表1)。
2. コグマザサは、赤土用土の場合、ポット当り緩効性化成肥料(総N成分量)1g・4回分肥施用または被覆複合肥料270の2g施用が適している。山砂用土では、ポット当り被覆複合肥料270の1g施用が適している(表2)。
3. ヘデラ・カナリエンスは、赤土用土の場合、ポット当り被覆複合肥料180の1g施用が適し、山砂用土では緩効性化成肥料2～3g・2回分肥施用が適している(表3)。
4. リュウノヒゲは、赤土の場合、ポット当り緩効性化成肥料1g・4回分肥施用または被覆複合肥料270の1～2g施用が適している。山砂用土では、ポット当り緩効性化成肥料2g・4回分肥施用または被覆複合肥料270の1g施用が適している(表4)。

[成果の活用面・留意]

1. 供試用土は三重県産の赤土：pH4.2、山砂：pH4.4である。

[具体的デ - タ]

表 1 . アークトセカの用土別の肥料、施肥量の違いが生育に及ぼす影響

基本用土	肥料名 施肥量	増加 芽数	株生重 g
赤	緩効性0.5g	2.3	37.7
	化成肥1.0g	2.0	46.7
	料 1.5g	2.0	58.6
土	被覆複1.0g	3.7	69.7
	合肥料2.0g	3.0	82.0
	270 3.0g	3.3	98.4
山	緩効性0.5g	2.3	32.7
	化成肥1.0g	2.6	55.7
	料 1.5g	2.0	97.0
砂	被覆複1.0g	4.3	77.4
	合肥料2.0g	4.3	101.6
	270 3.0g	4.3	97.7

* 基本用土 2 : ピート土 1 : パーライト 1 (体積比)
 * 定植:H9/9、調査:H10/1、施肥量はN成分量
 * 緩効性化成肥料:2回分肥施用/15cmポット
 被覆複合肥料:全量元肥

表 2 . コグマザサの用土別の肥料、施肥量の違いが生育に及ぼす影響

基本用土	肥料名 施肥量	芽数	株生重 g
赤	緩効性 1g	57.5	65.0
	化成肥 2g	32.0	53.6
	料 3g	42.0	39.5
土	被覆複 1g	30.0	36.3
	合肥料 2g	49.7	52.0
	270 3g	41.0	40.3
山	緩効性 1g	20.7	19.0
	化成肥 2g	16.0	19.6
	料 3g	25.5	19.5
砂	被覆複 1g	47.7	43.0
	合肥料 2g	31.5	17.5
	270 3g	21.0	21.7

* 定植:H9/9、調査:H10/6、施肥量はN成分量
 * 緩効性化成肥料:4回・分肥施用/15cmポット
 被覆複合肥料:全量元肥

表 3 . ヘデラ・カリエンシスの用土別の肥料、施肥量の違いが生育に及ぼす影響

基本用土	肥料名 施肥量	蔓長増 加比	株生重 g
赤	緩効性 1g	4.10	43.2
	化成肥 2g	3.94	39.6
	料 3g	3.61	51.8
土	被覆複 1g	4.34	50.8
	合肥料 2g	4.33	44.8
	180 3g	4.42	44.2
山	緩効性 1g	5.64	46.4
	化成肥 2g	5.53	55.0
	料 3g	7.10	60.0
砂	被覆複 1g	5.00	51.0
	合肥料 2g	3.69	53.0
	180 3g	4.01	50.6

* 定植:H11/6、調査:H11/11、施肥量はN成分量
 * 緩効性化成肥料:2回分肥施用/15cmポット
 被覆複合肥料:全量元肥

表 4 . リュウヒゲの用土別の肥料、施肥量の違いが生育に及ぼす影響

基本用土	肥料名 施肥量	芽数	株生重 g
赤	緩効性 1g	13.7	48.3
	化成肥 2g	13.0	42.7
	料 3g	11.0	36.3
土	被覆複 1g	14.0	46.0
	合肥料 2g	12.0	50.7
	270 3g	11.7	40.3
山	緩効性 1g	13.0	46.3
	化成肥 2g	14.7	53.0
	料 3g	9.7	36.0
砂	被覆複 1g	18.7	56.0
	合肥料 2g	13.7	45.3
	270 3g	12.0	44.0

* 定植:H9/9、調査:H10/6、施肥量はN成分量
 * 緩効性化成肥料:4回・分肥施用/15cmポット
 被覆複合肥料:全量元肥

[その他]

研究課題名: 中山間地帯における新規地域特産作物育成のための生産技術と傾斜地の多目的環境保全整備技術の開発

予算区分: 国補(実用化支援)

研究期間: 平成11年度(平成7~11年)

研究担当者: 内山達也, 鎌田正行, 中野直